

15:1 また私は、天にもう一つの巨大な驚くべきしるしを見た。七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。神の激しい怒りはここに窮まるのである。15:2 私は、火の混じった、ガラスの海のようなものを見た。獣と、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々が、神の立琴を手にして、このガラスの海のほとりに立っていた。15:3 彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊の歌とを歌って言った。「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主よ。万物の支配者である神よ。あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。15:4 主よ。だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者があるでしょうか。ただあなただけが、聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」15:5 その後、また私は見た。天にある、あかしの幕屋の聖所が開いた。15:6 そしてその聖所から、七つの災害を携えた七人の御使いが出て来た。彼らは、きよい光り輝く亜麻布を着て、胸には金の帯を締めていた。15:7 また、四つの生き物の一つが、永遠に生きておられる神の御怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使いに渡した。15:8 聖所は神の栄光と神の大能から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、入ることができなかった。

16:1 また、私は、大きな声が聖所から出て、七人の御使いに言うのを聞いた。「行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に向けてぶちまけよ。」16:2 そこで、第一の御使いが出て行き、鉢を地に向けてぶちまけた。すると、獣の刻印を受けている人々と、獣の像を拝む人々に、ひどい悪性のはれものができる。16:3 第二の御使いが鉢を海にぶちまけた。すると、海は死者の血のような血になった。海の中のいのちのあるものは、みな死んだ。16:4 第三の御使いが鉢を川と水の源とにぶちまけた。すると、それらは血になった。16:5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「今いまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このようなさばきをなさったからです。16:6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは、その血を彼らに飲ませました。彼らは、そうされるにふさわしい者たちです。」16:7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ。万物の支配者である神よ。あなたのさばきは真実な、正しいさばきです。」16:8 第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。16:9 こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。16:10 第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。16:11 そして、その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行いを悔い改めようとしなかった。16:12 第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。16:13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。16:14 彼らはしるしを行う悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。16:15 ——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである——16:16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。16:17 第七の御使いが鉢を空中にぶちまけた。すると、大きな声が御座を出て、聖所の中から出て来て、「事は成就した」と言った。16:18 すると、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほど大きな、強い地震であった。16:19 また、あの大きな都は三つに裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。そして、大バビロンは、神の前に覚えられて、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。16:20 島はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。16:21 また、一タラントほどの大きな雹が、人々の上に天から降って来た。人々は、この雹の災害のため、神にけがしごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。

導入

今日の箇所は黙示録の中でも、もっとも凄惨な場面です。

15章1節には、最後の7つの災害が地上にもたらされるとあります。
ここにある最後の7つの災害とは、神の御怒りの集大成です。
神は、人類が自らの罪と頑なな心を悔い改めるチャンスができる限りお与えになりました。
そして、今度は神の裁きの時です。
神の裁きが下される前に、恐ろしい裁きの前に天で何が起こったかについて記されています。
黙示録15章は、天の様子描写と最後の裁きへの導入部分です。

1. 勝利者とその歌 (15:1-4)

1-4節は、クリスチャンが天で集まってすばらしい歌を歌っていると語ります。
このクリスチャンは、手や額に反キリスト者の刻印を受けることを拒んで殺された信徒たちです。
彼らは地上で命を落としましたが、天国では喜んでいます。
ヨハネが見た幻は、勝利した信徒たちが天の海の上に立っている様子です。
これは、出エジプト記15章でモーセとイスラエルの民が勝利の歌を歌いながら葦の海を渡る様子を彷彿とさせます。
神の民は、神のもたらされた災いの奇跡をとおして、エジプトの奴隷生活から解放されました。
ここで再び、神はエジプトの災いを起こされます。しかし今回は、エジプトだけでなく全世界に及ぶ災いです。
15-16章を読むと、エジプトの災いと人類に対する神の最後の御怒りの類似点が見えてきます。
このことから、聖書がひとつの書であることが明らかに分かります。
聖書にはたくさんの書が含まれていますが、その全体でひとつの絵を紡ぎ出すのです。
皆さんが創世記から黙示録を通して読んで、その全体像を見ることができるようにと私は願っています。

ここで、殉教した神のしもべたちが天で歌う歌に注目しましょう。これは、地上に最後の裁きが下る前です。
6つの詩篇がこの歌のもとになっているのは興味深い点です。
では、その6つの詩篇を読みましょう。

詩篇 90:1-2

90:1 主よ。あなたは代々にわたって私たちの住まいです。 90:2 山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。

詩篇 92:5 【主】よ。あなたのみわざはなんと大きいことでしょう。あなたの御計らいは、いとも深いのです。

詩篇 145:17 【主】はご自分のすべての道において正しく、またすべてのみわざにおいて恵み深い。

詩篇 86:9 主よ。あなたが造られたすべての国々はあなたの御前に来て、伏し拝み、あなたの御名をあがめましょう。

詩篇 86:9 主よ。あなたが造られたすべての国々はあなたの御前に来て、伏し拝み、あなたの御名をあがめましょう。

詩篇 111:9 主は、御民に贖いを送り、ご自分の契約をとこしえに定められた。主の御名は聖であり、おそれおおい。

1. 聖徒たちが天で歌う歌は、みことばに深く根ざしている。

先週、スコットランドのルイス島でのリバイバルでクリスチャンになった女性についてお話ししました。

この女性は、リバイバルの期間中、詩篇を歌っているときにもっとも神が人々のそばにいてくださったと証していました。

その理由がここにあります。

それは、神のみことばが歌われるとき、神ご自身がそれを尊んでくださるからです。

私たちの賛美チームも、毎週のメッセージのみことばに合う賛美を選ぼうと努めてくれていきます。

これはなかなか難しいことですが、たいていの場合、ぴったりのものを選んでくれます。だからこそ、私たちが賛美をもって礼拝するひとときは豊かで神に喜んでもらえるものになります。私たちが神のみことばを神に向かって歌うとき、神は私たちを喜んでくださいます。

ですから、賛美のときはいつも神のみことばに心を向けましょう。

2. 聖徒たちが天で歌う歌は、自らの功績について言及しない。

この歌は、完全に神だけに焦点を当てます。

彼らの歌は、神の偉大さに満ち溢れています。

天国は、人が自分のことを忘れて神のことだけを思う場所だ、と言った人がいます。

この歌の内容を詳しく学ぶ時間はありませんが、その中に登場する神のご性質について挙げておきます。

- 神の御業は「偉大であり、驚くべきもの」です。
- 神の道は「正しく、真実」です。
- 神は、聖徒たちの王です。私たちは神の聖徒で、神は私たちの王です。
- 神は聖なるお方です。これは、神のご性質の中でももっとも重要な要素です。
- いつの日か、すべての国の人々が来て、聖なる神を礼拝します。
- 神の裁きが明らかにされます。

救いについていくら語っても、何から救われなければならないかについて知らせなければ意味がありません。

人が救われなければならないのは、神の御怒りからです。そして、今日の個所から、黙示録の時代における神の御怒りがどのようなものか垣間見ることができます。

救いとは、罪からの救いであり、来たるべき神の御怒りから救い出されることです。

これは、人類にとって最大の救済計画です。

では、15 : 5-8 に進みましょう。

2. 裁きとその意味 (5-8 節)

天の聖所が開き、7人の御使いが出てきます。

7とは完全を意味する数字です。この7人の御使いは、地上における神の裁きを完了させようとしています。

よこしまな世界が神の律法を汚して逆らったので、裁きがくだります。

御使いの着衣は、神聖さと王威を象徴します。

「白い亜麻布」から、旧約聖書の祭司が思い浮かびます。また、「金の帯」は王を指します。これは、神の聖徒たちが「王」であり、「祭司」であることを改めて教えます。(黙示録 1 : 6)

また、この描写から、黙示録 1 : 13 を連想します。

黙 1:13 それらの燭台の真ん中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。

最後に、8節には天の聖所が神の栄光からの煙で満たされていたとあります。

旧約聖書には、神の聖所または幕屋が神の栄光で満たされていたという個所がふたつあります。出エジプト 40 : 34-35 と歴代誌第二 7 : 1-4 です。

出エジプト 40 : 34-35

40:34 そのとき、雲は会見の天幕をおおい、【主】の栄光が幕屋に満ちた。40:35 モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、【主】の栄光が幕屋に満ちていたからである。

歴代誌第二 7 : 1-4

7:1 ソロモンが祈り終わると、火が天から下って来て、全焼のいけにえと、数々のいけにえとを焼き尽くした。そして、【主】の栄光がこの宮に満ちた。7:2 祭司たちは【主】の宮に入ることができなかった。【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである。7:3 イスラエル人はみな、火が下り、【主】の栄光がこの宮の上に現れたのを見て、ひざをかがめて顔を地面の敷石につけ、伏し拝んで、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と【主】をほめたたえた。7:4 それから、王と民はみな、【主】の前にいけにえをささげた。

しかし、今日の個所はひとつ異なることがあります。それは、7つの災害が終わるまで、誰も聖所に入ることができないという点です。御使いも信徒も、世の民のために祈る目的で聖所に入ることができませんでした。つまり、すでに祈りや神のあわれみを受けられないところまで来たということです。神の堪忍袋の緒が切れ、裁きが下ろうとしているのです。これは、聖書の中でもっとも悲惨な個所です。もう望みはありません。

では、6章の7つの災害に進みましょう。

16章の裁きは、8章の裁きに似ていますが、その内容はさらに厳しさを増します。これらの裁きは、反キリスト者とサタンの王国に対して次々とくだります。その内容はエジプトの災いに似ていますが、先ほど言ったように、全世界に及ぶものです。

災害1 — 第一の裁きでは、獣の刻印を受けている人々と、獣の像を拝む人々に、ひどい悪性のはれものができます。これは、エジプトの第6の災いに似ています。（出エジプト9 : 9）

災害2 — 第二の裁きでは、神が海水を血に変え、海中の生物はすべて死にます。

災害3 — 第三の裁きは、地上のすべての川と泉にくだります。これは、出エジプト7 : 14-25に記されたエジプトの第一の災いに似ています。この裁きをもたらした御使いは次のように語ります。

16:5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「今いまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このようなさばきをなされたからです。16:6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは、その血を彼らに飲ませました。彼らは、そうされるにふさわしい者たちです。」

地上の人々は血を流したので、その血を飲まなければならないのです。これは、聖書に一貫して働く法則です。パロは、生まれてすぐのヘブル人の男の子をすべてナイル川でおぼれさせました。神の裁きは、エジプトの兵士たちを葦の海でおぼれさせるというかたちで下りました。

エステル記では、ハマンがユダヤ民族を滅ぼそうと企み、ユダヤ人の指導者であるモルデカイをかけるための処刑台（柱）を作りました。しかし、神は状況を一転させ、ハマンとその一家が代わりに処刑されるようになさいました。

エステル 8:7 アハシュエロス王は、王妃エステルとユダヤ人モルデカイに言った。「ハマンがユダヤ人を殺そうとしたので、今、私はハマンの家をエステルに与え、彼は柱にかけられたではないか。

ここで、黙示録 6 : 9-10 を読みましょう。

6:9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。 6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

神と神のみことばに忠実であったゆえに地上で殺された多くのクリスチャンの叫びに、神が遂に応えられるのです。

災害 4 — この災害で、人々は火で焼かれます。神が太陽を熱くされて、人々が屋外に出ると焼けてしまうようです。これは、マラキ 4 : 1 の預言の成就です。

マラキ 4:1 見よ。その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行う者は、わらとなる。来ようとしているその日は、彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。——万軍の【主】は仰せられる——

この裁きが下ると、人々は神に対して怒り、悔い改めようとも、神の栄光をたたえようともしません。その心は完全に閉ざされたままです。

災害 5 — この災害は、完全な暗闇です。出エジプト 10 : 21-29 に記されたエジプトの第 9 のわざわいに似ています。これは、ヨエル記 2 : 1-2 の預言の成就です。

2:1 シオンで角笛を吹き鳴らし、わたしの聖なる山でときの声をあげよ。この地に住むすべての者は、わななけ。【主】の日が来るからだ。その日は近い。 2:2 やみと、暗黒の日。雲と、暗やみの日。山々に広がる暁の光のように数多く強い民。このようなことは昔から起こったことがなく、これから後の代々の時代にも再び起こらない。

ここでもまた、人々は悔い改めなかったとあります。

「イエスの恵みによって勝ち取られなかったたましいは、永遠に勝ち取られない」という聖書説教者の言葉を思い出します。それは、どんなに人が説得しようと、どんな方法を使おうと、イエスについていくように人を説き伏せることはできないという意味です。それは、人々のうちに働く神の恵みの御業なのです。

今、あなたのうちに神は働いておられますか。

災害 6 — この災害で、ユーフラテス川は枯れました。この裁きには、目的があると記されています。その目的とは、東の王たちのために道を備えるためです。16 節は、ユーフラテス川が枯れたのは、「ハルマゲドン」の戦いに備えるためだと語ります。その単語は、メギド山という意味です。私はイスラエルにあるこの場所を訪れたことがあります。

人里離れた場所ですが、将来のいつかに大きな戦いを起こせる広さがあります。
この最後の戦いについては、6月18日の黙示録19章の学びでお話します。詳しくはそのときにお話ししましょう。

災害7 — 最後の災害では、全地球が揺り動かされます。

16:18 すると、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほどに大きな、強い地震であった。

16:20 島はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。**16:21** また、一タラントほどの大きな雹が、人々の上に天から降って来た。人々は、この雹の災害のため、神にけがしごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。

この災害について、わざわざ話す必要もないと思います。そういう災害があるとわかるだけでもとても恐ろしいことです。

しかし、これは将来地上で現実にかかる災害です。人類の反逆と不従順に対する神の裁きもまた現実です。

今日の個所から、私たちの生き方に関わる教えは何でしょう。

ここにいる私たちがこの裁きの時代を経験する可能性は低いですが、あり得ないことではありません。

ここで、私たちはよりよい生き方をする手助けとなるよう、神について学ぶことができます。そして、クリスチャンでない人は、私たちの身に降りかかる神の裁きについて真剣に受け止める必要があります。

1. 適用～信徒の皆さんへ

日本で暮らし、働くクリスチャンは、人から好まれない存在です。

テモテ第二3:12には、次のような約束があります。

Ⅱテモ3:12 確かに、キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。

これは、うれしい約束ではありませんが、事実です。

キリスト・イエスにあつて敬虔であろうとすればするほど、迫害に苦しみます。

はっきりとした理由もないのに職場でつらい目に遭わされているなら、サタンが上司に働いて、あなたをくじけさせようとしているのかもしれない。

キリスト教の企業で働ける人は世界でも少数です。

ですから、誰でも職場でつらい目に遭うことがあります。

もし私がアメリカに住んでいたら、この会社に就職したいと思います。

なぜなら、この会社は日曜日が休みだからです。

神はこのファーストフードチェーンを祝福してくださっていますが、この会社も日曜日に休業するという信念についてメディアで常にたたかれています。

神に従って生きようとすることで人からひどい扱いを受ける時は、その人たちのためにまず祈らなければなりません。手遅れにならないうちに、神の恵みはその人たちにも与えられるようにと祈るのです。

その人たちにとって、唯一の聖書はあなたの生き方を見ることかもしれません。

その人たちにとって、イエスと天国で過ごす永遠のいのちをいただくという希望を見出せる場所は、唯一あなたかもしれません。

また、もうひとつの側面もあります。

あなたを迫害する人たちのために祈るとき、神がその人たちをいつの日か裁かれることを思い出してください。

神の裁きは、100%確実にやってきます。神の裁きを免れる人は誰もいません。神はすべてをお見通しです。

クリスチャンである私たちは、神の選びの民の一員であることを喜びましょう。

ただし、その選択には責任が伴います。それは、迫害を受けても恵みをもって神に従いイエスの証人となることです。

迫害の度合いが重くても軽くても、つらいことに変わりはありません。

けれども、聖霊なる神が助けてくださいます。

2. 適用～ノンクリスチャンの皆さんへ

15章8節を思い出してください。

15:8 聖所は神の栄光と神の大能から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、入ることができなかった。

最後の災害が終わるまで、天の聖所に誰も入ることができないのです。

つまり、神の恵みを受けるチャンスはもうないということです。

私が考え得る最悪の事態とは、ここにいる誰かが死後地獄に行くことです。

今日、神が語っておられることを確実に受け取ってください。

ヨハネ 3 : 14-21

3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。 3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。 3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。 3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。 3:19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。 3:20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。 3:21 しかし、真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。

最後に、3人の悪霊の話をしたと思います。

ひとりめの悪霊は、人がクリスチャンになるのを思いとどまらせる方法を思いついたと言います。

ふたりめが、どんな方法かと尋ねます。

するとひとりめは、天国などないと人に教えればよいと答えます。

ふたりめは、「そんな方法ではだめだ。創造主なる神がいる証拠は自然界にありすぎる。神はどこかで生きているに違いない」と言います。

そして、「もっといい方法がある。地獄がないと人間に教えればよい。裁きなどないから、何でも好きなことができる、と教えるのだ。」と言いました。

これに他の悪霊たちが反論しました。そして、それではうまくいかない理由を並べました。ついに3人目の悪霊が出てきて、最高の方法があると言いました。

人間に、「時間はたっぷりある」と教えるのです。

人間に時間をたっぷり与えれば、クリスチャンになる確率は低いというわけです。

聖書は、「今日こそ救いの日」と語ります。

神が今日あなたの心に語りかけられたなら、すぐにイエスのもとに行きましょう。そうでなければ、もう二度とチャンスはないかもしれません。